

幼児・児童の物語理解に及ぼす 視点の役割に関する研究

佐 藤 公 代

(教育心理学研究室)

(平成3年10月11日受理)

問 題

佐藤公代(1984)は「比較的容易な視点では4歳児が、困難な視点では5、6歳児が、登場人物の気持ちを再生作話しているが、気持ちの理解になると、6歳児に視点の難易があらわれてくるようである。」と結論づけた。その際、読み手の実生活での立場や経験の問題や視点の移動の問題点については、次回の研究を待たなければならず、今回、その点を取り上げて実験してみた。

目 的

被験者を兄弟関係によって別々に分析して、自分の生活経験上の立場が、人物理解にどの程度関わってくるのかを実験的に考察し、幼児だけでなく、児童も取り上げて、年齢の巾を広げ、何歳頃から、視点を与えた人物以外の他の人物へ視点に移せるかを見い出す。

仮説は次の通りである。

- ① 自由再生課題では、視点をとった人物の立場と被験者のおかれている立場が同じ場合、被験者自身の気持ちが入ってくるだろう。
- ② 物語の再作話の場合、登場人物についての作話は、その人物の視点をとった方が良く作話するだろう。
- ③ 物語の筋の展開と他の登場人物の行動、気持ちに関する作話や理解は、登場人物に視点をとった方が良いだろう。
- ④ 登場人物の気持ちの理解において、その人物に視点をとった方が良く理解でき、視点をとった登場人物の立場と被験者の立場が同じ場合、その理解は良く深まるだろう。
- ⑤ 年齢の高まりと共に、視点をとった人物以外の登場人物にも視点に移せるようになるだろう。
- ⑥ 立場の違いによって、兄弟姉妹に対する意識変化が、低年齢ほど大きく起こるだろう。

方 法

1) 被験者：松山市立Y保育園児 5歳児26名 6歳児22名，松山市立K小学校，1年生80名，2年生57名，計185名。

2) 材料：事前調査として，付表1，2のような調査を行う。その後，「ぼくあかんぼなんかほしくなかったのに」(マーサ＝アレクサンダー作，絵，岸田裕子訳，偕成社)を，B4版の15場面の紙芝居に兼井氏が描き，下記5)のⅠ～Ⅲ条件に沿って，“お兄ちゃん”“赤ん坊のボニー”第三者の視点から書き直したものを使用する。ただし，保育園児に対しては，カタカナの名前は同じように聞こえて混同し易く，わかりにくいと思われるので日本名に換えて使用する。又，視点を移動し易いように着色に注意する。

3) 手続き

○事前調査として，兄弟関係と兄弟姉妹に対する意識を調べ，3グループに分ける。ただし，保育園児に対しては，被験者の人数と保育園での実験の都合上，兄弟関係で2グループに分け，本実験の前に，兄弟姉妹に対する意識を調査する。

○本実験として，下記5)の条件別に集団で紙芝居を読み聞かせる。その際，紙芝居の表紙を見せながら，次の導入を行ってから，紙芝居を読み聞かせる。

条件Ⅰ（お兄ちゃんの視点をとらせる）…「今から『ぼくあかんぼなんかほしくなかったのに』というお話をします。赤ちゃんができて，お母さんやおばさん達が赤ちゃんばかりをかわいがるので，お兄ちゃんは，赤ちゃんなんかいなかったらいいのになあと思うのね。お兄ちゃんははどうするのかな。みんながお兄ちゃんになったつもりで聞いていてね。後でどんなお話だったか書いて「話して」もらうからよく聞いていてね。」と教示する。

条件Ⅱ（赤ん坊の視点をとらせる）…「今から『ぼくあかんぼなんかほしくなかったのに』というお話をします。赤ちゃんのボニー〔花子〕はお兄ちゃんが大好きなんだけど，お兄ちゃんはボニー〔花子〕を誰かにあげてしまおうとするの。どうなるのかな。皆がボニー〔花子〕になったつもりで聞いていてね。後で，どんなお話だったか書いて「話して」もらうから，よく聞いていてね。」と教示する。

条件Ⅲ（統制群）…「今から，『ぼくあかんぼなんかほしくなかったのに』というお話をします。後で，どんなお話だったか書いてもらうから。よく聞いていてね。」と教示する。

なお，〔 〕内は幼児に言う場合である。

紙芝居終了後，挿絵を見せないで，「今のお話どんなお話だったかな。始めから思い出して順番に書いて「お話しして」くれる？」と言って，自由に再生作話をさせる。その際，全くできない子には，Table 1のような問いかけを行い，再生し易くする。

Table 1 問いかけ

- 1 お兄さんやお姉さんはいますか？
- 2 お兄さんやお姉さんが，いてよかったですか？（1でいると答えた子）
お兄さんやお姉さんは，ほしいですか？（1でいないと答えた子）
- 3 弟や妹はいますか？
- 4 弟や妹が，いてよかったですか？（3でいると答えた子）
弟や妹は，ほしいですか？（3でいないと答えた子）

次に，15場面から繰り返しを省略し，大筋を追っている6場面を抽出し，その6場面の絵を1枚1枚見せながら，「これはどんなお話だったかな？」と言って，絵ごとの再生作話をさせる。

その後、内容、登場人物の気持ちの理解を見るために、Table 2 の問いかけをし、わからない子には誘導質問をする。

Table 2 理解度テスト

問いかけ	誘導質問 (10項目 1項目 1点)
(1) 誰が出てきたかな？	① 赤ちゃん (ボニー, 花子)
	② お兄ちゃん
	③ 3人の女の子
	④ バイクの人
(2) お兄ちゃんは、赤ちゃんをどうした？	⑤ トビー (太郎君, お兄ちゃんの友達)
(3) トビー (太郎君) とどこへ行きましたか？	⑥ 誰かにあげにいった
(4) トビー (太郎君) のお母さんが抱いたとき、赤ちゃんはどうしたの？	⑦ トビー (太郎君) の家, お母さん
(5) ずっと泣いたままだった？	⑧ 泣いた
(6) それからどうなったの？	⑨ お兄ちゃんを見て笑った
	⑩ お兄ちゃんが抱いて家に帰った。

最後に、紙芝居によって兄弟姉妹に対する意識にどのような変化があったかを見るために、再び兄弟姉妹に対する意識調査を行う。

以上、4つの事柄を小学生には、解答用紙を配って書かせ、問いかけや誘導質問は机間巡視して行い、保育園児に対しては、個別実験で行う。

4) 条件

条件Ⅰ…お兄ちゃんの視点でお話を聞く。お兄ちゃんの語りの文章、お兄ちゃんを強調した絵 (お兄ちゃんだけに色をつける)、お兄ちゃんの視点をとらせるような導入と教示を用いる。付表3に条件Ⅰの文章を示す。

条件Ⅱ…赤ん坊のボニー〔花子〕の視点でお話を聞く。ボニー〔花子〕の語りの文章、ボニー〔花子〕を強調した絵 (ボニー〔花子〕だけに色をつける)、ボニー〔花子〕の視点をとらせるような導入を教示。付表4に条件Ⅱの文章を示す。

条件Ⅲ…統制群。第三者の語りの文章。全体に色をつけた絵。付表5に条件Ⅲの文章を示す。

5) 得点化

○事前調査

Table 3 に事前調査によるグループ分けを示しておく。

○本実験

(a) 自由再生作話課題

Table 2 に示した10項目を採点基準とし、1項目1点の10点満点とする。そして、問いかけによって正答した場合、1項目0.5点とする。作話の特徴として、被験者が作話した文章から、お兄ちゃんとボニー〔花子〕の行動、気持ちについての部分を取り出して、条件ⅠとⅡを比較し、さらに被験者の立場でも比較する。

(b) 絵ごとの再生作話課題

全15場面の中から抽出した6場面について、1つの場面を①お兄ちゃんの行動、気持ち、②ボニー〔花子〕の行動、気持ち、③筋の展開、他の登場人物の行動、気持ち、の3項目について別々に採点する。その際、各項目とも正しく再生作話されていれば、各1点、助言によって再生作話された場合や不完全な作話の場合0.5点を与える。

(c) 理解度テスト

Table 4 に理解度テストの課題を示す。なお、() 内は誘導質問である。

Table 3 事前調査によるグループ分け

年齢	条件	人数	兄弟関係											
			兄・姉だけ			弟・妹だけ			両方いる			一人っ子		
			○	上 下	×	上 下	○	上 下	×	上 下	○	上 下	×	上 下
5歳児	I	12	1			8			2			1		
			1	0		6	2		2	0		1	0	
			1	0		7	1		2	0		1	0	
	II	14	10			0			2			2		
			8 △ ₂	0		0	0		1	1		0	2	
			9	1		0	0		1 △ ₁	0		1	1	
6歳児	I	11	0			9			1			1		
			0	0		5 △ ₁	3		1	0		1	0	
			0	0		8 △ ₁	0		1	0		1	0	
	II	11	9			0			0			2		
			8	1		0	0		0	0		1	1	
			7 △ ₁	1		0	0		0	0		2	0	
小学校一年生	I	32	13			14			3			2		
			11	2		12	2		3	0		1	1	
			8	5		11	3		2	1		1	1	
	II	33	18			11			4			0		
			15	3		11	0		2	2		0	0	
			12	6		7	4		4	0		0	0	
	III	15	5			6			3			1		
			4	1		6	0		3	0		1	0	
			2	3		3	3		2	1		1	0	
小学校二年生	I	22	10			10			2			0		
			6 △ ₁	3		7	3		2	0		0	0	
			7	3		6	4		2	0		0	0	
	II	22	10			8			2			2		
			6	4		8	0		1	1		2	0	
			7	3		4	4		1	1		1	1	
	III	13	6			6			0			1		
			5	1		3	3		0	0		1	0	
			6	0		2 △ ₁	3		0	0		1	0	

○：いてよかった

ほしい

×：いない方がよかった

ほしくない

△：どちらでもよい（わからない）

上：兄や姉に対する意識

下：弟や妹に対する意識

Table 4 理解度テストの問題

- ① おばさん達が、ポニー〔花子〕のことをほめてるとき、お兄ちゃんは、どんな気持ちだったと思いますか。
- ポニー〔花子〕がほめられてうれしかったかな。それとも、ポニーばかりほめてつまらなかったかな)
- ② お兄ちゃんに、「君達の母さん、かわいい赤んぼほしくないかな」と聞かれて、エイミーとアリスとフィリス（春子ちゃんと夏子ちゃんと秋子ちゃん）は、何ていいましたか。
- （男の子ならほしいと言いましたが、それともかわいい赤ちゃんだからほしいと言いましたか）

- ③ バイクの人達は、お兄ちゃんに「この青い目のかわいい赤んぼほしくない」と聞かれた時、どうして断ったと思いますか。
(かわいくないからだと思いますが、それとも、赤ちゃんがもうすぐ生まれるからだだと思いますか)
- ④ バイクの人に断られた時、お兄ちゃんは、どんな気持ちだったと思いますか。
(うれしかったかな、それとも、がっかりしたかな)
- ⑤ バイクの人に断られた時、ボニー〔花子〕は、どんな気持ちだったと思いますか。
(ほっとしたかな、それとも、がっかりしたかな)
- ⑥ トビー（太郎君）のお母さんが抱いた時、どうしてボニー（花子）は泣いたのでしょうか。
トビー（太郎君）のお母さんが好きじゃないからだと思う。それとも、知らない人に抱かれて不安だったからだと思う)
- ⑦ ボニー〔花子〕が泣き出した時、トビー（太郎君）のお母さんやみんなは、どんな気持ちだったでしょう。
(どうしたのだろう心配だったと思う。それとも、泣いたりしていやな赤ちゃんだと思ったと思う)
- ⑧ お兄ちゃんに抱いてもらった時、ボニー〔花子〕はどんな気持ちだったと思いますか。
(うれしかったかな、それとも、うれしくなかったかな)
- ⑨ ボニー〔花子〕を抱いた時、お兄ちゃんはどう思ったでしょう。
(いやなやつだと思ったかな、それとも、いい子だなと思ったかな)
- ⑩ お兄ちゃんとボニー〔花子〕は、それから仲良く暮らしたと思いますか。
1 おもう 2 おもわない

お兄ちゃんの手持ちについての理解は①④⑨の3問、ボニー〔花子〕の手持ちについての理解は⑤⑥⑧の3問、筋の展開、事柄とお兄ちゃん、ボニー〔花子〕以外の他の登場人物の手持ちについての理解は②③⑦の3問、その他、心情について⑩の1問、計10問で、各1点の10点満点とする。誘導質問の場合、正答すれば0.5点とする。

結果と考察

Fig. 1 に、各年齢における各条件群の自由再生作話課題の再生作話率を示す。

Fig. 1 から、小学1年生において5%水準で有意差がある ($F=4.7$, $I-II$ $P<0.01$)。5, 6歳児ともI群（お兄ちゃんの視点をとらせる）よりII群（赤ん坊の視点をとらせる）の方の再生作話率の方が高く、小学1, 2年生は逆にI群の方が良い。さらに、どの条件も年齢と共に再生作話率は高くなっている。よって、仮説⑤は支持される。

次に、実生活における立場や体験が、自由再生作話にどのような影響を与えるかをみるために、お兄ちゃんの立場、ボニー〔花子〕の立場にいる者に分け、そのグラフを Fig. 2 に示す。

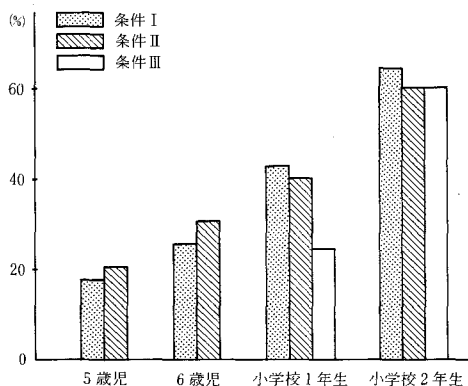


Fig. 1 各年齢における各条件群の自由再生作話課題の再生作話率

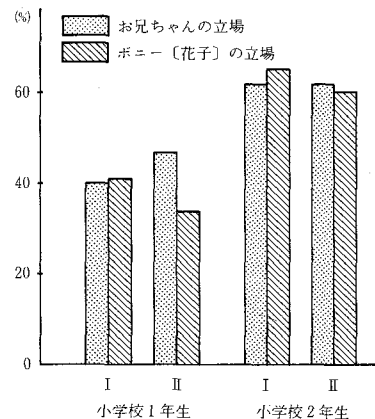


Fig. 2 自由再生作話課題における再生作話率(%)のお兄ちゃんの立場とボニー〔花子〕の立場の比較

Fig. 2 から、1年生のⅡ群に5%水準で有意差がある($t=2.34$)。Ⅰ群は、1、2年生ともボニーの立場にいる方が、Ⅱ群は、逆に、お兄ちゃんの立場にいる方が、再生作話率が高い。よって、仮説③は支持される。

Fig. 3, 4 に、各条件における5、6歳児と小学1、2年生の自由再生作話課題のお兄ちゃん和ボニー〔花子〕の行動、気持ちについての表現数を示す。

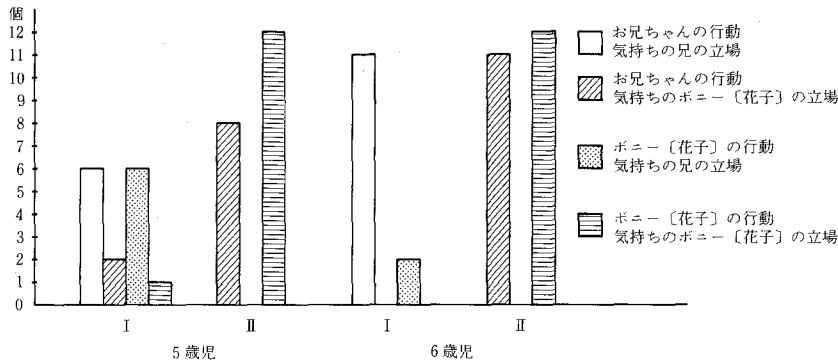


Fig. 3 各条件における5、6歳児の自由再生作話課題のお兄ちゃんとボニー〔花子〕の行動、気持ちについての表現数

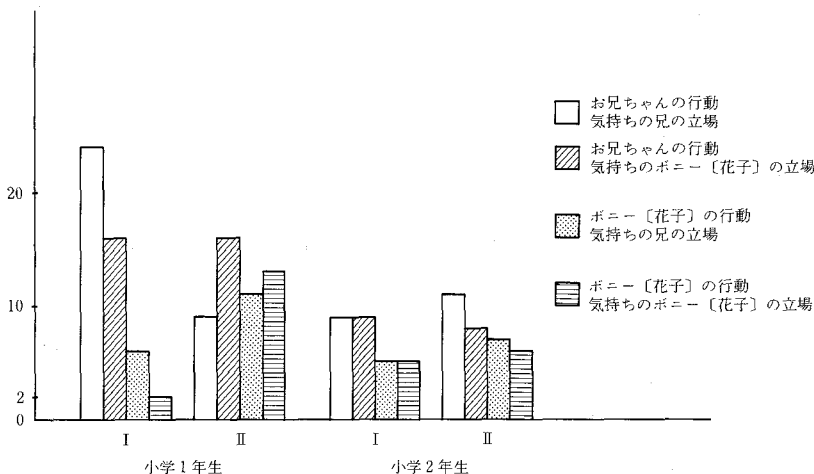


Fig. 4 各条件における小学1、2年生の自由再生作話課題のお兄ちゃんとボニー〔花子〕の行動、気持ちについての表現数

Fig. 3, 4 から、お兄ちゃんの行動、気持ちについての作話数は、どの学年においてもお兄ちゃんの視点をとったⅠ群の方がⅡ群よりも多く、多彩な内容である。特に、気持ちについての作話では、Ⅱ群が“赤ちゃんが嫌い”“妹が気に入らない”“赤ん坊がほしくない”などのように簡単であるのに比べ、Ⅱ群では、どうして嫌いなのかという理由まで書いてある。そして、ボニー〔花子〕の立場にいる者は“ぼくのこと考えてよね”“何でこいつだけもてるんだ”“そんなにぼくの方がいいのか、じゃぼくが育てよう”“売るなんて悪いことをしたなと思って…”など独創的なものがみられる。又、兄の立場にいる者では、小学2年生に自分自身の気持ちが入ってきているものがみられる。よって、仮説①は支持される。

次に、ボニー〔花子〕の行動、気持ちについての作話では、どの学年においても、ボニー〔花子〕の視点をとったⅡ群の方が、Ⅰ群に比べ、行動・気持ちとも内容が多彩で作話数も多い。Ⅰ群では、気持ちについて作話した者が小学1年生でただ一人だけであるが、Ⅱ群ではどの学年においてもみられ、“お姉ちゃんじゃいや、お兄ちゃんの方がいい”“お兄ちゃんどこにいるの？いたら来てよう”“はやくもどしてよ”など独創的なものがみられる。さらに、各群とも視点をとった方が、人物についての作話が多くなっている。よって、仮説①は支持される。

Fig. 5, 6, 7 にそれぞれⅠ, Ⅱ, Ⅲ条件において、絵ごとの再生作話率を示す。

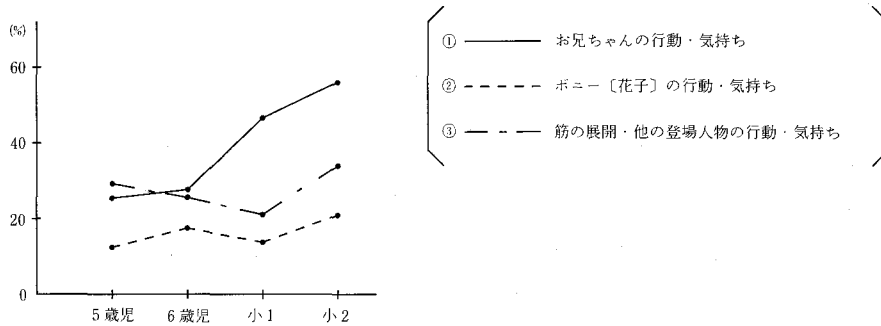


Fig. 5 条件Ⅰにおける絵ごとの再生作話率

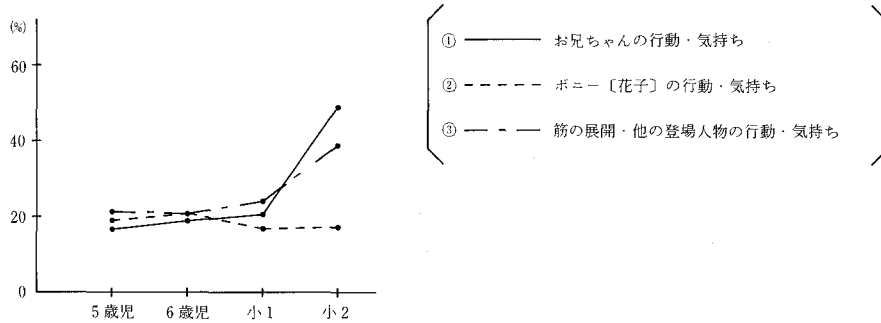


Fig. 6 条件Ⅱにおける絵ごとの再生作話率

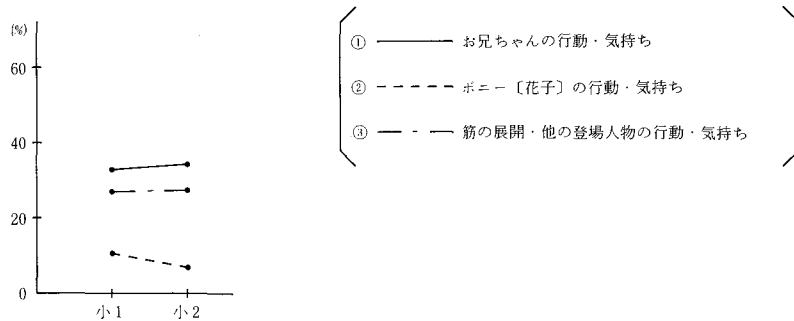


Fig. 7 条件Ⅲにおける絵ごとの再生作話率

Fig. 5 から、小学1, 2年生に1%水準で有意差がみられる(それぞれ $F=24.83$, $F=12.94$)。そして、I群の5歳児では③>①>②, 6歳児では①>③>②, 小学1, 2年生では①>③>②の順で、5歳児を除いて、①の作話率が高い。

Fig. 6 から、小学2年生に1%水準で有意差がみられる($F=8.31$)。そして、II群の5歳児では③>②>①, 6歳児では②=③>①, 小学1年では③>①>②, 小学2年では①>③>②の順で一貫性が見られない。

Fig. 7 から、小学1年, 2年で5%水準で有意差が認められる(それぞれ $F=3.6$, $F=4.77$)。そして、①>③>②の順で①の作話率が高い。

以上から、ボニー〔花子〕の行動、気持ちについての再生作話が非常に難しいことがわかる。これは、抽出した6場面の中で、ボニー〔花子〕はお兄ちゃんと共にすべての場面に登場し、何らかの行動を起こし、気持ちを表現している。しかし、最初の4場面においては、ボニー〔花子〕が赤ちゃんであることから、ボニー〔花子〕を連れているお兄ちゃんの方が行動を起こし、ボニーはそれを受け止める立場にあり、その行動、気持ち共にひかえ目で目に見えるほどの著しい変化がみられないことから、お兄ちゃんが筋の展開に対して積極的に関わり、ボニー〔花子〕は消極的に関わっていたのであろう。Fig. 8 にお兄ちゃんの行動、気持ちについての絵ごとの再生作話率を示して、条件間の比較をしてみる。

Fig. 8 から、小学1年生に1%水準で有意差がある($F=10.62$, $I=II$ $P<0.001$)。5, 6歳児とも $I>II$, 小学1年は $I>III>II$, 小学2年は $I>II>III$ の順でI群の再生率が一番高い。そして、各条件とも年齢の高まりと共に再生作話率も高まっている。

Fig. 9 に各条件におけるボニー〔花子〕の行動、気持ちについての絵ごとの再生作話率を示す。

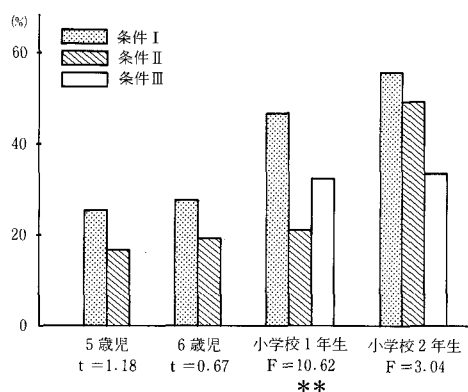


Fig. 8 各条件におけるお兄ちゃんの行動、気持ちについての絵ごとの再生作話率

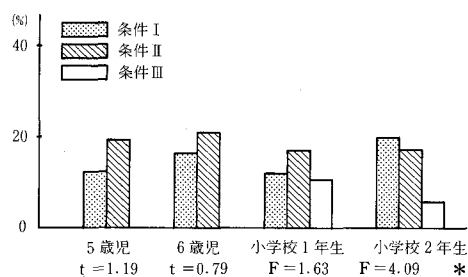


Fig. 9 各条件におけるボニー〔花子〕の行動、気持ちについての絵ごとの再生作話率

Fig. 9 から、小学2年生に5%水準で有意差がある($F=4.09$)。5, 6歳児は $II>I$, 小学1年は $II>I>III$, 小学2年は $I>II>III$ の順で、小学2年生を除いて、条件IIの作話率が一番高い。各条件とも年齢の高まりと共に再生率が高まっているとは必ずしもいえない。

Fig. 10 に各条件における筋の展開、他の登場人物の行動、気持ちについての絵ごとの再生作話率を示す。

Fig. 10 から、5, 6歳児とも $I>II$, 小学1年は $III>II>I$, 小学2年は $II>I>III$ の順で、II, III群に関して、年齢の高まりと共に再生率が高まっている。よって、仮説②は支持

される。

Fig. 11 に各条件における理解度テストの理解率を示す。

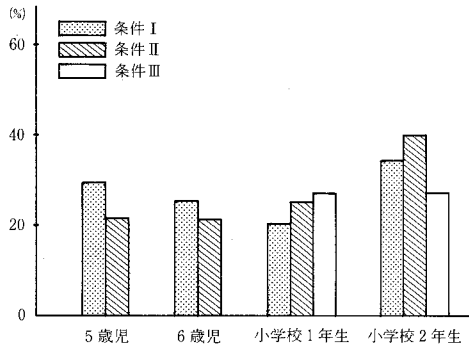


Fig. 10 各条件における筋の展開, 他の登場人物の行動, 気持ちについての絵ごとの再生作話率

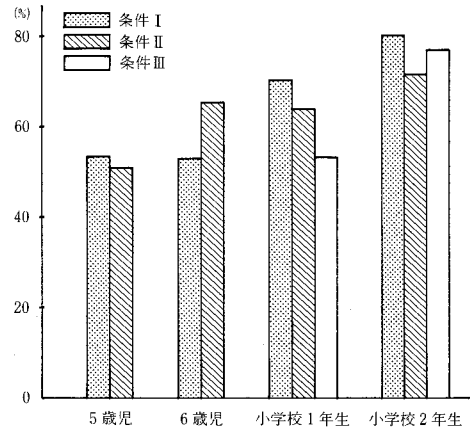


Fig. 11 各条件における理解度テストの理解率

Fig. 11 から, 小学 1 年生に 5 % 水準で有意差がある ($F=4.01$, $I-II$, $P<0.01$)。5 歳児は $I>II$, 6 歳児は $II>I$, 小学 1 年は $I>II>III$, 小学 2 年は $I>III>II$ と, 6 歳児を除いて I 群の理解度が高い。III 群は年齢の高まりと共に理解率が高い。

Fig. 12, 13, 14 に条件 I, II, III の理解率を示す。

Fig. 12 から, 小学 1 年に 1 % 水準で ($F=10.65$)。小学 2 年に 5 % 水準で ($F=3.28$) 有意差がある。5 歳児, 小学 1 年, 2 年では $①>②>③$, 6 歳児は $②>①>③$ の順で, ②, ③において年齢の高まりと共に理解率も高まっている。

Fig. 13 から, 5 歳児で 5 % 水準 ($F=3.96$), 6 歳児, 小学 1 年, 2 年で 1 % 水準 (それぞれ $F=5.63$, $F=16.96$, $F=6.72$) で有意差がある。5 歳児は $②>③>①$, 6 歳児, 小学 1 年, 小学 2 年は $②>①>③$ の順で, ①, ②においては年齢の高まりと共に理解率も高まっている。

Fig. 14 から, 小学 1 年で 5 % 水準で有意差がある ($F=4.44$)。小学 1 年は $②>①>③$, 2 年は $①>②>③$ の順で年齢の高まりと共に理解率も高まっている。

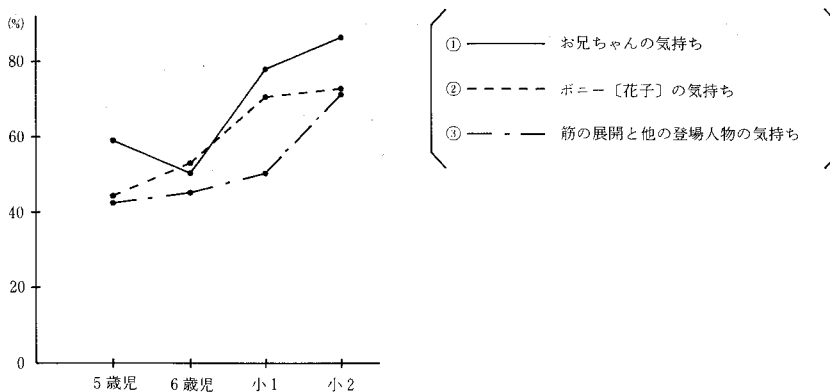


Fig. 12 条件 I における理解率

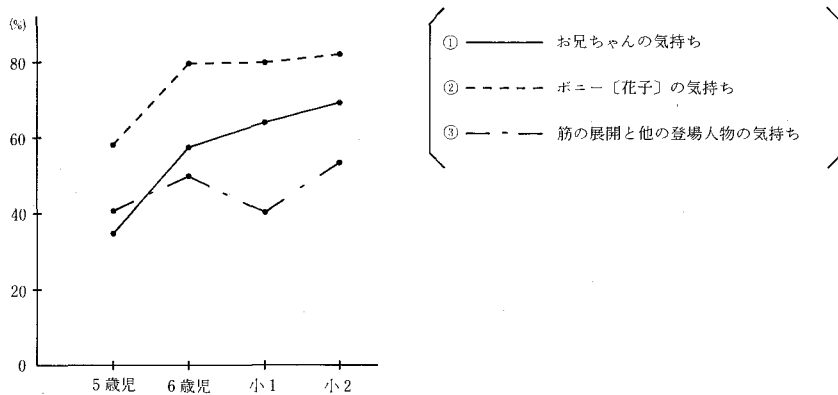


Fig. 13 条件Ⅱにおける理解率

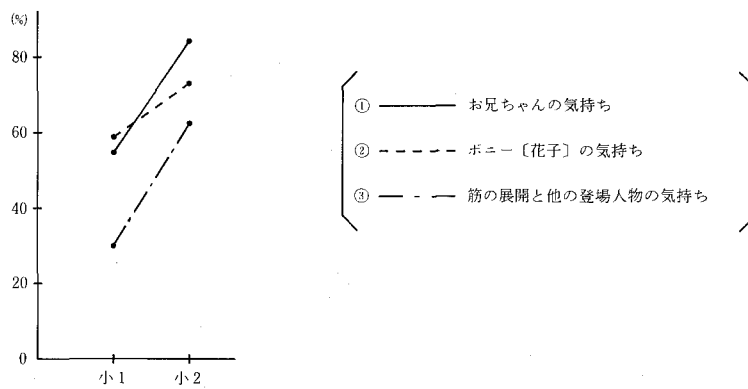


Fig. 14 条件Ⅲにおける理解率

Fig. 15 に各条件におけるお兄ちゃんの行動, 気持ちについての理解率を示す。

Fig. 15 から, 5歳児, 小学1年生に5%水準で(それぞれ $t=2.78$, $F=4.17$), 小学2年生に1%水準で($F=5.11$) 有意差がある。5歳児は $I > II$, 6歳児は $II > I$, 小学1年生は $I > II > III$, 小学2年生は $I > III > II$ の順になっていて, 6歳児を除いて, I条件が良い。年齢とのかかわりでは, I条件の5, 6歳の所が逆点しているが, それ以外は, 年齢の高まりと共に理解率が高まっている。

Fig. 16 に各条件におけるボニー〔花子〕の気持ちについての理解率を示す。

Fig. 16 から, 6歳児は1%水準で($t=2.97$), 小学1年生は5%水準で($F=3.84$) 有意差がある。どの年齢も $II > I > III$ の順になり, 年齢の高まりと共に理解率も高まっている。

Fig. 17 に各条件における筋の展開, 他の登場人物の行動, 気持ちについての理解率を示す。

Fig. 17 から5歳児は $I > II$, 6歳児は $II > I$, 小学1年生は $I > II > III$, 小学2年生は $I > III > II$ の順で, I, III群は年齢の高まりと共に理解率が高まっている。

Fig. 18 に小学1, 2年生におけるお兄ちゃんの気持ちについて, 条件ⅠとⅡとの理解率の比較を示す。

Fig. 18 から, 小学2年生のⅡ条件を除いてお兄ちゃんの立場の方の理解率が高い。各学年とも両立場においてⅠ条件の方の理解率が高い。

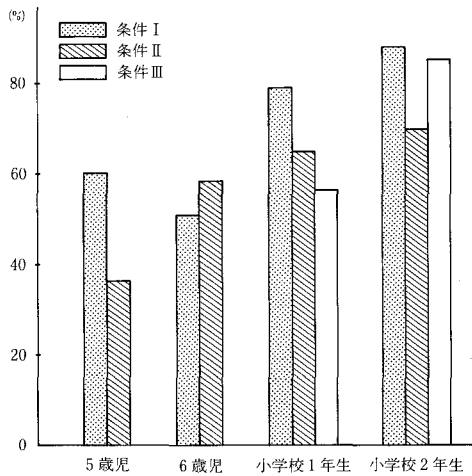


Fig. 15 各条件におけるお兄ちゃんの行動、気持ちについての理解率

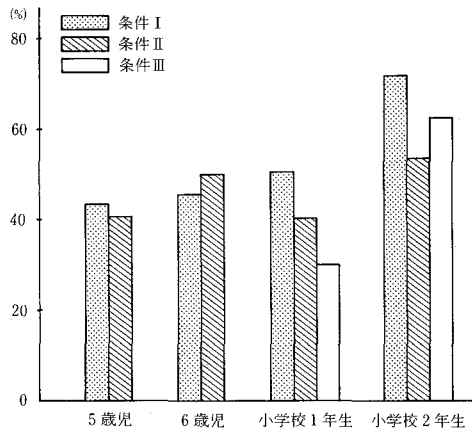


Fig. 17 各条件における筋の展開、他の登場人物の行動、気持ちについての理解率

Fig. 19 に小学 1, 2 年生におけるボニーの気持ちについて、条件 I と II との理解率の比較を示す。

Fig. 19 から小学 1 年生の II 条件を除いて、お兄ちゃんの方の理解率が高い。各学年とも両立場において II 条件の方の理解率が高い。よって、仮説④は支持される。

Table 5 に意識調査の結果を示す。

Table 5 を Table 3 と比較し、意識の変化を Table 6, 7, 8, 9 に示す。

Table 6 から 5 歳児の条件 I では兄、姉に対して、兄、姉の立場にいる者にのみ、ほしい

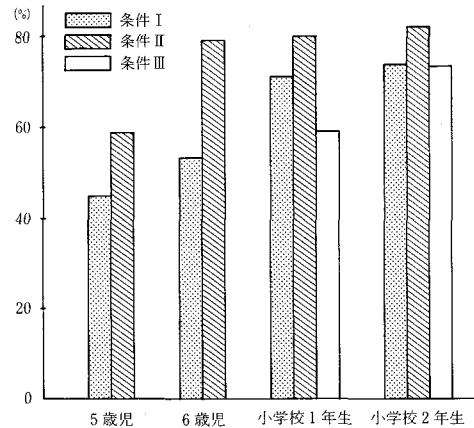


Fig. 16 各条件におけるボニー「花子」の気持ちについての理解率

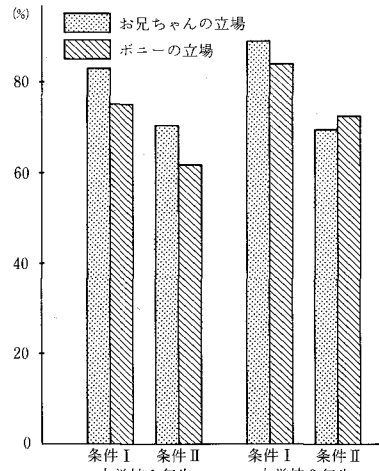


Fig. 18 小学 1, 2 年生におけるお兄ちゃんの気持ちについて、条件 I と II との理解率の比較

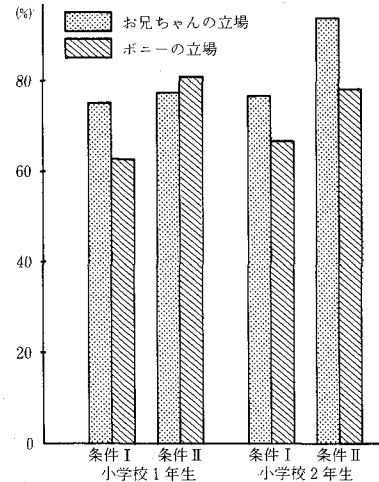


Fig. 19 小学 1, 2 年生におけるボニーの気持ちについて、条件 I と II との理解率の比較

からほしくないへ20%の意識の変化がみられ、条件Ⅱでは、兄、姉、弟、妹、それぞれに対して、被験者の立場によって、意識の変化に差が見られる。

Table 7 から6歳児の条件Ⅱに兄、姉に対して、被験者の立場によって意識の変化に違いが見られる。

Table 8 から小学1年生の条件Ⅰでは、兄、姉に対して、弟、妹の立場にある者（3人兄弟の真中を1名含む）に、ほしいからほしくないという意識の変化がみられ、弟、妹に対して

Table 5 意識調査の結果

年齢	条件	人数	兄弟関係		兄・姉だけ		弟・妹だけ		両方いる		一人っ子	
			意識		○		○		○		○	
			上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
5歳児	Ⅰ	12	1		8		2		1			
			1	0	4	4	2	0	1	0		
			1	0	7	1	2	0	1	0		
	Ⅱ	14	10		0		2		2			
			7 △	2	0	0	△	1	1	1		
			8	2	0	0	2	0	1	1		
6歳児	Ⅰ	11	0		9		1		1			
			0	0	6	3	1	0	1	0		
			0	0	8	1	1	0	1	0		
	Ⅱ	11	9		0		0		2			
			7	2	0	0	0	0	2	0		
			7	2	0	0	0	0	2	0		
小学校一年生	Ⅰ	32	13		14		3		2			
			9	4	12	2	2	1	1	1		
			9	4	11	3	2	1	1	1		
	Ⅱ	33	18		11		4		0			
			18	0	2	4	0	0	0	0		
			14	4	7	4	3	1	0	0		
	Ⅲ	15	5		6		3		1			
			2	3	5	1	3	0	1	0		
			0	5	3	3	3	0	1	0		
小学校二年生	Ⅰ	22	10		10		2		0			
			7	3	7	3	1	1	0	0		
			6	4	8	2	2	0	0	0		
	Ⅱ	22	10		8		2		2			
			8	2	8	0	1	1	2	0		
			8	2	4	4	1	1	2	0		
	Ⅲ	13	6		6		0		1			
			4	2	4	2	0	0	1	0		
			6	0	3	3	0	0	0	1		

○：いてよかった

ほしい

×：いない方がよかった

ほしくない

△：どちらでもよい（わからない）

上：兄や姉に対する意識

下：弟や妹に対する意識

は、弟、妹の立場にある者に、ほしくないからほしいという意識変化が見られる。条件Ⅱでは兄、姉、弟、妹それぞれに対して、被験者の立場によって、意識の変化に差が見られる。

Table 9 から小学2年生の条件Ⅰ、Ⅱとも、兄、姉、弟、妹それぞれに対して、被験者の立場によって意識の変化に差が見られる。

以上、事例研究的に少人数の変化過程しか見れないが、仮説⑥は支持される。全体として、お兄ちゃんに視点をとった条件Ⅰでは、立場にかかわらず、兄や姉はほしくなくなり、反対に、妹や弟をほしくなるという傾向が見られ、ボニー〔花子〕に視点をとった条件Ⅱでは、お兄ちゃんの子は、兄や姉をほしいと思わなくなり、それ以外の立場の子は反対に、兄や姉がほしくなり、さらに妹や弟もほしくなるという傾向が見られる。

Table 6 5歳児における意識の変化

(○：ほしい、いてよかった)
(×：ほしくない、いない方がよかった)

〔条件Ⅰ〕

○ 兄・姉に対する意識の変化

		事後		
		○	×	
事前	○	8	2 (20)	10
	×	0 (0)	2	2
		8	4	12

CR=0.71

〔条件Ⅱ〕

○ 兄・姉に対する意識の変化

		事後		
		○	×	
事前	○	6	3 (33)	9
	×	2 (40)	3	5
		8	6	14

CR=0

○ 弟・妹に対する意識の変化

		事後		
		○	×	
事前	○	11	0 (0)	11
	×	0 (0)	1	1
		11	1	12

CR=0

○ 弟・妹に対する意識の変化

		事後		
		○	×	
事前	○	10	1 (9)	11
	×	1 (33)	2	3
		11	3	14

() 内は変化率

Table 7 6歳児における意識の変化

〔条件Ⅰ〕

○ 兄・姉に対する意識の変化

		事後		
		○	×	
事前	○	6	1 (14)	7
	×	1 (25)	3	4
		7	4	11

○ 弟・妹に対する意識の変化

		事後		
		○	×	
事前	○	9	1 (10)	11
	×	1 (100)	0	1
		10	1	11

CR=0

〔条件Ⅱ〕

○ 兄・姉に対する意識の変化

		事後		
		○	×	
事前	○	8	1 (11)	9
	×	1 (50)	1	2
		9	2	11

○ 弟・妹に対する意識の変化

		事後		
		○	×	
事前	○	8	1 (11)	9
	×	1 (50)	1	2
		9	2	11

() 内は変化率

Table 8 小学校1年生における意識の変化

〔条件Ⅰ〕

○ 兄・姉に対する意識の変化

		事後		
		○	×	
事前	○	21	6 (22)	10
	×	3 (60)	2	5
		24	8	32

CR=0.67

○ 弟・妹に対する意識の変化

		事後		
		○	×	
事前	○	19	3 (14)	22
	×	4 (40)	6	10
		23	9	32

〔条件Ⅱ〕

○ 兄・姉に対する意識の変化

		事後		
		○	×	
事前	○	26	2 (7)	28
	×	5 (100)	0	5
		31	2	33

CR=0.76

○ 弟・妹に対する意識の変化

		事後		
		○	×	
事前	○	21	2 (9)	23
	×	3 (30)	7	10
		24	9	33

() 内は変化率

Table 9 小学校2年生における意識の変化

〔条件Ⅰ〕

○ 兄・姉に対する意識の変化

		事後		
		○	×	
事前	○	13	2 (13)	7
	×	1 (14)	6	7
		14	8	22

○ 弟・妹に対する意識の変化

		事後		
		○	×	
事前	○	13	2 (13)	15
	×	3 (43)	4	7
		16	6	22

〔条件Ⅱ〕

○ 兄・姉に対する意識の変化

		事後		
		○	×	
事前	○	17	0 (0)	17
	×	2 (40)	3	5
		19	3	22

CR=0.71

○ 弟・妹に対する意識の変化

		事後		
		○	×	
事前	○	12	1 (8)	13
	×	3 (33)	6	9
		15	7	22

CR=0.50

() 内は変化率

結 論

①登場人物の気持ちの理解は、お兄ちゃんの気持ちについてはお兄ちゃんの視点をとった条件Ⅰの方が、ボニー〔花子〕の気持ちについてはボニー〔花子〕の視点をとった条件Ⅱの方が、理解率が高く、自由再生作話においても、より内容豊富に再生作話されていることから、お兄ちゃんの視点をとると、お兄ちゃんの気持ちの理解が深まり、ボニー〔花子〕の視点をとるとボニー〔花子〕の気持ちの理解が深まる。

②物語の筋の展開の理解は、お兄ちゃんとボニー〔花子〕の視点をとった条件ⅠとⅡの方が、何も視点を与えない条件Ⅲよりも理解率が高いことから、視点の影響が見られる。

③小学1年生までは視点の影響が見られ、難しい課題（視点を与えた以外の登場人物にも視点に移せる）の場合には、小学2年生に影響が見られる。

④兄弟姉妹に対する意識について、被験者のおかれている立場の違いによって、紙芝居の読み聞かせ後、その変化に一定の傾向が見られる。

参 考 文 献

佐藤公代 1984 幼児の思考の発達に関する研究－幼児の物語理解に及ぼす視点の役割－愛媛大学教育学部紀要 第Ⅰ部 教育科学 第30巻 79－86

付 表 1 (幼児に聞く場合)

ねん	くみ	なまえ	
			さい
○ おにいさんやおねえさんはいますか。			
()			
なんさいですか。			
			さい
○ おとうとやいもうとはいますか。			
()			
なんさいですか。			
			さい
○ おにいさんやおねえさんはほしいですか。			
()			
○ おとうとやいもうとはほしいですか。			
()			

付表 2 (児童に書かせる場合)

ねん くみ なまえ さい (おとこのこ おんなのこ)

<p>① おにいさんやおねえさんはいますか。</p> <p>1 おにいさんがいます。</p> <p>2 おねえさんがいます。</p> <p>3 おにいさんとおねえさんがいます。</p> <p>4 どちらもいません。</p>		<p>③ おとうとやいもうとはいますか。</p> <p>1 おとうとがいます。</p> <p>2 いもうとがいます。</p> <p>3 おとうとといもうとがいます。</p> <p>4 どちらもいません。</p>	
<p>②の1 おにいさんやおねえさんのいる人。</p> <p>(1, 2, 3に○をした人)</p> <p>○おにいさんやおねえさんがいてよかったですか。</p> <p>おもうほうに, ○をつけてください。</p> <p>1 いてよかったです。</p> <p>2 いないほうがよかったです。</p>	<p>②の2 おにいさんもおねえさんもない人。</p> <p>(4に○をした人)</p> <p>○ おにいさんやおねえさんはほしいですか。</p> <p>おもうものに, ○をつけてください。</p> <p>1 おにいさんがほしい。</p> <p>2 おねえさんがほしい。</p> <p>3 りょうほうほしい。</p> <p>4 ほしくない。</p>	<p>④の1 おとうとやいもうとのいる人。</p> <p>(1, 2, 3に○をした人)</p> <p>○ おとうとやいもうとがいてよかったですか。</p> <p>おもうほうに, ○をつけてください。</p> <p>1 いてよかったです。</p> <p>2 いないほうがよかったです。</p>	<p>④の2 おとうともいもうともいない人。</p> <p>(4に○をした人)</p> <p>○ おとうとやいもうとはほしいですか。</p> <p>おもうものに, ○をつけてください。</p> <p>1 おとうとがほしい。</p> <p>2 いもうとがほしい。</p> <p>3 りょうほうがほしい。</p> <p>4 ほしくない。</p>

付表 3 条件Ⅰの文章

- ① あっ, また, おばさん達が来て, ポニー「花子」をほめてる。お母さんも, あんなに喜んじゃって, ぼくのことなんか, 少しも気にしてないんだ。
- ② ポニー「花子」なんて, どこがかわいいんだ。みんなを一人じめにして, いやなやつだ。
- ③ よーし。ポニー「花子」を誰かにやってしまおう。
- ④ あっ, エイミーとアリスとフィリス(春子ちゃんと夏子ちゃんと秋子ちゃん)がいるぞ。「君達の母さん, かわいい赤んぼほしくないかな?」「もちろんほしがるわよ。男の子ならね。」ちえっ。ポニー「花子」は女の子だからだめだなあ。じゃ, 「ばいばい」
- ⑤ あのパイクの人もらってくれないかなあ。「ねえ, この青い目のかわいい赤んぼほしくない? そのかごなら, ちゃんと乗せてくれるよ。」「そんなこと考えもしなかったわ。でも, 私達の赤ちゃんも, もうすぐ生まれるの。ありがとう。」
- ⑥ あーだめだ。誰もほしがらないよ。トビー(太郎君)が来た。トビー(太郎君)に聞いてみよう。
- ⑦ 「ねえトビー(太郎君)。誰もほしがらない赤んぼを, ほしがる人いない?」「いるさ, うちの母さんだよ。赤んぼが, 大好きなのさ。」わーい。よかった。
- ⑧ 「あら, 何てかわいい赤ちゃんなの」トビー(太郎君)のお母さん喜んでるぞ。ポニー「花子」をもらってくれるかな。
- ⑨ だけどポニー「花子」のやつ, トビー(太郎君)のお母さんが抱くと, 泣き出したんだ。「どうしたの赤ちゃん。おなかすいてるの」って。みんなが心配してるじゃないか。
- ⑩ あんまり泣くから, トビー(太郎君)のお母さんは, おまえに嫌われたと思ったみたいだ。今度は, ジェインがあやしてくれるから, おとなしくするんだよ。
- ⑪ だめだよ。そんなにジェイン(みどりさん)の髪の毛引っぱったら。ジェイン(みどりさん)が「いたいって」いってるじゃないか。
- ⑫ ポニー「花子」のやつ, せっかくジェイン(みどりさん)が抱いてくれているのに, うるさく泣いているから, ぼく「うるさい!」って言ってやったんだ。
- ⑬ そしたらポニー「花子」は泣きやんで, ぼくの方を見て笑うんだ。ジェイン(みどりさん)が, 「ほら, あんたに抱いてほしいのよ」って, ポニー「花子」をぼくに渡したのさ。
- ⑭ ポニー「花子」, 思ったより, ずっといい子なんだね。いじわるしてごめんね。
- ⑮ ポニー「花子」, 大きくなったら, 二人で遊ぼうね。

付表 4 条件Ⅱの文章

- ① 「まあ, なんてかわいい赤ちゃん」「ぼちゃぼちゃして」またおばさん達が, 私のことをほめてくれる。
- ② 今度は, お兄ちゃんが私のことを見にきたわ。どうしたのかしら, こわい顔してる。
- ③ お兄ちゃん, どこへ連れていってくれるのかなあ。

- ④ お兄ちゃんの友達のエイミーとアリスとフィリス（春子ちゃんと夏子ちゃんと秋子ちゃん）だ。「こんにちは」お兄ちゃんたら、「君達の母さん、かわいい赤んぼほしくないかな？」なんて聞ける。どうしよう。でも、「男の子なら、ほしがるわよ」って言うてる。私は女の子だから、いらないわね。あーよかった。
- ⑤ わー、バイクだ。でもお兄ちゃん、またバイクの人に、「ねえ、この青い目のかわいい赤んぼほしくない？」なんて言うてる。でも、「そんなこと考えもしなかったわ。私達の赤ちゃんも、もうすぐ生まれるの。ありがとう」って行っちゃった。
- ⑥ あーよかった。あれ？ トビー（太郎君）が来たわ。
- ⑦ 「ねえトビー（太郎君）、誰もほしがらない赤んぼをほしがる人いない？」って、またお兄ちゃん聞ける。「いるさ、うちの母さんだよ。赤んぼが大好きなのさ」どうなるのかなあ。
- ⑧ 「トビー（太郎君）のお母さんだわ。私のこと「あら、なんてかわいい赤ちゃん」なんて言うてる。この人に、もらえるのかしら。
- ⑨ わーん。わーん。お兄ちゃんおいてかないで。私、おなかなんてすいてないわ。お兄ちゃん どこ？
- ⑩ この人誰。お兄ちゃんじゃないわ。わーん。お兄ちゃん、どこに行ったの？
- ⑪ そんなことしたって、ちっともおもしろくないわ。お兄ちゃん。わーん。わーん。
- ⑫ 「うるさい！」あつ、お兄ちゃんの声だ。お兄ちゃん、いたのね。
- ⑬ わーい。お兄ちゃんだ。お兄ちゃん、お兄ちゃん、はやく抱いてよ。
- ⑭ やっぱり、お兄ちゃんがいいわ。お兄ちゃん、大好きよ。
- ⑮ お兄ちゃん。大きくなったら、一緒に遊んでね。

付表 5 条件Ⅲの文章

- ① 「まあ、奥様。なんてかわいい赤ちゃん！」「ぼちゃぼちゃして」
- ② お兄ちゃんが、ボニー〔花子〕をのぞき込んでいます。
- ③ おやおや？ どこへ行くのかな？
- ④ 「やあ、エイミーにアリスにフィリス（春子ちゃんに夏子ちゃんに秋子ちゃん）！君達の母さん、かわいい赤んぼほしくないかな？」「もちろんほしがるわよ。男の子ならね」
- ⑤ 「ねえ、この青い目のかわいい赤んぼほしくない？ そのかごなら、ちゃんと乗せていけるよ。」「そんなこと、考えもしなかったわ。でも、私達の赤ちゃんも、もうすぐ生まれるの。ありがとう。」
- ⑥ 「あーだめだ。誰もほしがらないよ。」
- ⑦ 「ねえ、トビー（太郎君）。誰もほしがらない赤んぼを、ほしがる人いない？」「いるさ、うちの母さんだよ。赤んぼが大好きなのさ」
- ⑧ 「母さん、いいものを見せてあげるよ。」「あら、なんてかわいい赤ちゃん！」
- ⑨ 「どうしたの 赤ちゃん？ おなかすいてるの？ すいてないの？ ピンがささって、ちくちくするの？」
- ⑩ 「ピンでもないわ。たぶん、私を好きじゃないのね。ジュイン（みどり）、あやしてごらん」
- ⑪ 「いたい！ いやねえ この赤ちゃん。髪の毛引っ張ってるわ！」「なんて、おっかい声」
- ⑫ 「うるさい！ しずかにしてよ」
- ⑬ 「あら、あんたに抱いてほしいのよ」
- ⑭ 「ボニー〔花子〕、思ったよりずっといい子なんだね。母さんに言わなくちゃ」
- ⑮ 「ボニー〔花子〕、大きくなったら、二人で遊ぼうね。」

付 記

実験者の兼井雅代氏はじめ教育心理学専修の3回生、及び、山越保育園の園長、諸先生、幼児達、久米小学校の校長、諸先生、児童達（順不同）に対し、いろいろお世話になりましたことを、心より深く感謝致します。